

資 料

平成 28 年度
全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査
調査用紙

全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

この調査は、本研究所の言語障害教育研究班及び聴覚障害教育研究班における年次基礎調査として実施するものです。(担当者：久保山茂樹、小林倫代、牧野泰美、原田公人)

担当の先生(難聴・言語障害教育担当者等)にご回答いただくにあたってのお願い

- この調査は全国の傾向を把握するためにのみ使用され、個々の学級や学校の事例として使用されることはありませんので、実態をそのまま記入してください。
- この調査では便宜的に下記の名称を用いています。回答において下記の分類と名称にご留意ください。
 学級・・・難聴特別支援学級、言語障害特別支援学級
 教室・・・通級指導教室(難聴)、通級指導教室(言語障害)
 ※東京都の通級指導学級は 教室 として回答してください。
- 調査用紙は難聴・言語障害学級・通級指導教室設置校(園)1校(園)につき1部を送付しています。「同一校に複数の学級や教室が設置されている」「同一校内に他校(園)の学級が設置されている」「センター等にまとめて設置されている」などの場合でも、複数の学級・教室を合わせてご回答いただくことを原則とさせていただきます。
 ただし、学級・教室の実態や回答のしやすさから、学級・教室ごとに別の用紙に回答していただいてもかまいません。その場合恐縮ですが、この用紙をコピーしてご回答いただきますようお願いいたします。
- 記入は、平成28年9月1日現在で、お願いします。
 返送は、平成28年9月末日を目安に、同封の返信用封筒にてお願いします。

ご不明の点は、下記までお問い合わせください(なるべく電子メールかファックスでお願いします)。
 国立特別支援教育総合研究所 インクルーシブ教育システム推進センター 久保山茂樹

調査項目 A 基本的統計資料

A-1 所在地

学校所在地を都道府県名または政令指定都市名で記入してください。

都・道・府・県・市

A-2 学級・教室の設置状況や担任者数

下の表のうち、校内に(またはセンター等内に)設置されている学級・教室について○印をしてください。学級・教室担当者のうち、小中学校等の教員(常勤か非常勤かは問いません)の人数を「教員」の欄に、それ以外の職員(言語障害専門職・介助員等)の数を「教員以外」に記入してください。

小学校

学級・教室の種類	設置	教員	教員以外
難聴特別支援学級		名	名
通級指導教室(難聴)		名	名
言語障害特別支援学級		名	名
通級指導教室(言語障害)		名	名

中学校

学級・教室の種類	設置	教員	教員以外
難聴特別支援学級		名	名
通級指導教室(難聴)		名	名
言語障害特別支援学級		名	名
通級指導教室(言語障害)		名	名

幼児の教室

学級・教室の種類	設置	教員	教員以外
幼児のきこえの教室		名	名
幼児のこたばの教室		名	名
上記以外の幼児の教室		名	名

表に記入した教職員は、合計_____名

A-3 指導対象幼児・児童・生徒数

(1) 指導対象幼児・児童・生徒の障害等について

平成28年9月1日現在、指導している全ての子どもについて、表の該当欄に人数を記入してください。

- ・子ども1人について1障害に該当するものとして記入してください。
- ・同一学校に複数の学級や教室が設置されている場合は、それぞれの学級、教室が該当する表に全て記入してください。

①特別支援学級用

「正式な指導対象」（難聴・言語障害学級在籍児、または、難聴・言語障害学級における通級による指導の対象児）か「それ以外」（教育相談等）かを分類して人数を記入してください。

区 分	正式な指導対象である子ども						それ以外の子ども					
	幼 児	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生	高卒 以上	幼 児	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生	高卒 以上
難 聴												
構音障害												
口蓋裂												
吃 音												
言語発達の遅れ												
そ の 他												

②通級指導教室及び幼児の教室用

「指導対象として計数している」か「それ以外」かを分類して人数を記入してください。

区 分	指導対象として計数している子ども						それ以外の子ども					
	幼 児	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生	高卒 以上	幼 児	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生	高卒 以上
難 聴												
構音障害												
口蓋裂												
吃 音												
言語発達の遅れ												
そ の 他												

③上記の①と②の表で「その他」として記入した子どもはどのような子どもですか。

(2) 難聴について

上記①と②の表で「難聴」として記入した子どもについて、表に示す区分（良耳の平均聴力レベル）で分類して人数を記入してください。

- ・一側性難聴のある子ども及び人工内耳を装着している子どもについては、聴力レベルの欄に記入せず、一側性難聴または人工内耳の欄に人数を記入してください。
- ・一側性難聴のある子ども及び人工内耳を装着している子どもについては、補聴器装用の有無で分類してください。

区 分	正式な指導対象である子ども、 または、指導対象として計数している子ども						それ以外の子ども					
	幼 児	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生	高卒 以上	幼 児	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生	高卒 以上
40dB未満												
40dB～59dB												
60dB～79dB												
80dB～99dB												
100dB以上												
聴力レベル不明												
一側性難聴で補聴器装用												
一側性難聴で補聴器無し												
人工内耳と補聴器を装用												
人工内耳のみ装用												

(3) 発達障害等について

平成 28 年 9 月 1 日現在、指導している全ての子どもについてあてはまる欄に人数を記入してください。

	医師の診断や 専門機関の判定等がある						診断や判定等はないが 担当者の判断としてあてはまる					
	幼 児	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生	高 卒 以 上	幼 児	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生	高 卒 以 上
LD(学習障害)												
ADHD(注意欠陥多動性障害)												
自閉症スペクトラム												

(4) 卒業後の支援について

学級・教室で平成 28 年 3 月まで指導を受けていた子どもは、平成 28 年度、どこで支援を受けていますか。該当する欄に人数を記入してください。

① 幼児の教室で指導を受けていて、小学校等に就学した児童

特別な支援なし	人	自閉症・情緒障害特別支援学級	人
3月まで通った幼児の教室で継続	人	通級指導教室(難聴・言語以外)	人
難聴特別支援学級	人	特別支援学校(聴覚)小学部	人
通級指導教室(難聴)	人	特別支援学校(知的)小学部	人
言語障害特別支援学級	人	医療機関等学校以外	人
通級指導教室(言語障害)	人	その他()	人
知的障害特別支援学級	人	その他()	人

② 小学校の学級・教室で指導を受けていて、中学校等に進学した生徒

特別な支援なし	人	中学校の自閉症・情緒障害学級	人
3月まで通った小学校の学級・教室で継続	人	中学校の通級指導教室(難聴・言語以外)	人
中学校の難聴特別支援学級	人	特別支援学校(聴覚)中学部	人
中学校の通級指導教室(難聴)	人	特別支援学校(知的)中学部	人
中学校の言語障害特別支援学級	人	医療機関等学校以外	人
中学校の通級指導教室(言語障害)	人	その他()	人
中学校の知的障害学級	人	その他()	人

③ 中学校の学級や教室で指導を受けていて、高等学校等に進学した生徒

	難聴	言語障害
高等学校に進学し、特別な支援なし	人	人
高等学校に進学し、校内で特別な支援を受けている (具体的に:)	人	人
(具体的に:)	人	人
3月まで通った中学校の学級・教室で継続	人	人
特別支援学校(聴覚)高等部	人	人
特別支援学校(知的)高等部	人	人
医療機関等学校以外	人	人
その他()	人	人

調査項目 B 指導内容・方法

B-1 指導形態など

(1) 指導形態について、学級・教室の全体的な傾向として該当するもの1つに○印をしてください。

① 難聴のある子どもの指導について

1. ほとんど1対1の指導である
2. 1対1の指導を中心とし、小グループによる指導を併用している
3. ほとんど小グループによる指導である
4. 小グループによる指導を中心とし、1対1の指導を併用している

→ 2. 3. 4. に回答した場合は、小グループによる指導を行う理由を記入してください。

② 言語障害のある子どもの指導について

1. ほとんど1対1の指導である
2. 1対1の指導を中心とし、小グループによる指導を併用している
3. ほとんど小グループによる指導である
4. 小グループによる指導を中心とし、1対1の指導を併用している

→ 2. 3. 4. に回答した場合は、小グループによる指導を行う理由を記入してください。

(2) 指導時間について、それぞれに該当する人数を記入してください。

指導している子ども全員について、この学級・教室での指導時間が

1. 主に、通常の学級等の授業終了後である子ども・・・・・・・・・・ 人
2. 主に、通常の学級等の授業時間中のいずれかである子ども・・・・・・・・ 人
3. その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 人

(3) 巡回による指導について

平成28年9月1日現在、巡回による指導をしている子どもがいれば、該当する欄に人数を記入してください。

1. 担当者が指導対象児の在籍校に出向く形態で指導をしている・・・・・・・・ 人
2. 担当者も指導対象児も在籍校以外の場所に出向く形態で指導をしている・・・・ 人
3. 上記以外（具体的に・・・・・・・・・・・・・・・・） 人

B-2 指導について

指導において、重視していることを記入してください。

① 難聴のある子どもの指導

② 構音障害のある子どもの指導

③ 吃音のある子どもの指導

④ 言語発達の遅れのある子どもの指導

⑤ 「その他」に該当する子どもの指導

調査項目 C 学級・教室の経営等

C-1 学級・教室の経営について

学級・教室の経営上課題になっていることがらのうち主なものを3点まで記入してください。

- ・
- ・
- ・

C-2 通常の学級との連携について

(1) 学級・教室における指導に関する連携のうち行っているものすべてに○印をつけてください。

1. 連絡帳でのやりとり
2. 電話でのやりとり
3. 電子メールでのやりとり
4. 学級・教室だよりの発行
5. 通常の学級の授業や行事等を参観する
6. 指導報告書等を通常の学級に渡している
7. 通常の学級の担任に授業参観してもらう
8. 通常の学級の担任に学級や教室の行事を参観してもらう
9. その他 ()

(2) 通常の学級における学習や生活について学級担任に依頼していることを記入してください。

① 難聴のある子どもについて

② 構音障害のある子どもについて

③ 吃音のある子どもについて

④ 言語発達の遅れのある子どもについて

⑤ 「その他」に該当する子どもについて

(3) 通常の学級における学習や生活に関する連携について、行っているものすべてに○印をつけてください。

1. 通常の学級の授業に参加し、指導対象児への個別的な支援を行う
2. 通常の学級の授業に参加し、指導対象児以外の児童・生徒への個別的な支援を行う
3. 通常の学級で、障害に関する授業を行う
4. 通常の学級の担任から、指導対象児について相談を受ける
5. 通常の学級の担任から、指導対象児以外の児童・生徒について相談をうける
6. その他 ()

(4) 指導対象児の個別の指導計画について、当てはまるものに○印をつけてください。

1. 作成の段階から、学級・教室の担当者と通常の学級の担任が協議して、共有している。
2. 学級・教室の担当者が作成した指導計画を、通常の学級の担任と協議して、共有している。
3. 学級・教室の担当者が作成した指導計画を、通常の学級の担任に渡している。
4. その他 ()

C-3 設置校内や地域での役割等について

(1) 学級・教室の設置校内や地域の特別支援教育体制で果たしている役割について、該当するものに○印をつけてください（担当者が複数いる場合は、あてはまるもの全てに○印をつけてください）。

1. 校内の特別支援教育コーディネーター
2. 校内委員会等の委員
3. 地域の特別支援教育コーディネーター
4. 地域の教育支援委員会の委員
5. 地域の専門家（巡回相談）チームの委員
6. 乳幼児健診の相談員
7. 就学時健診における言語スクリーニング
8. その他（ ）

(2) 連携している地域の主な機関を3つまで記入し、年間の連携回数と連携内容を記入してください。

- ・機関名：
回数・内容：

- ・機関名：
回数・内容：

- ・機関名：
回数・内容：

C-4 幼児の指導について（幼児の指導や相談をしている場合にお答えください）

(1) 指導や相談の開始について

①何歳から相談や指導をしていますか。 相談は____歳ぐらいから 指導は____歳ぐらいから

②教室への紹介者はどの機関（健診等）でしょうか、あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. 一歳半健診
2. 一歳半健診後の教室
3. 三歳児健診
4. 三歳児健診後の教室
5. その他の健診（ ）
6. 医療機関
7. 療育機関
8. 幼稚園
9. 保育所
10. 認定こども園
11. 教育委員会
12. 保護者から直接
13. その他（ ）

(2) 地域の乳幼児健診に参加している場合、参加しているものに○印をつけてください。

1. 一歳六か月児健診の相談員
2. 一歳六か月児健診の事後指導スタッフ
3. 三歳児健診の相談員
4. 三歳児健診の事後指導スタッフ
5. その他の乳幼児健診（ ）の相談員
6. その他の乳幼児健診（ ）の事後指導スタッフ

(3) 幼児担当者について

①幼児担当者（幼児の担当として配属された職員）はいますか。

1. いる（ 名）
2. いない（小学校教員等が担当）

②幼児担当者の所属はどこですか。（例：○○幼稚園、△△町役場××課、□□村教育委員会）

③幼児担当者の職種について、あてはまるものにレ印をし、人数等を記入してください。

- | | | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|------------|
| <input type="checkbox"/> 幼稚園教諭 | 【 <input type="checkbox"/> 常勤（ 名） | <input type="checkbox"/> 非常勤（ 名） | （週に____回）】 |
| <input type="checkbox"/> 保育士 | 【 <input type="checkbox"/> 常勤（ 名） | <input type="checkbox"/> 非常勤（ 名） | （週に____回）】 |
| <input type="checkbox"/> 言語聴覚士 | 【 <input type="checkbox"/> 常勤（ 名） | <input type="checkbox"/> 非常勤（ 名） | （週に____回）】 |
| <input type="checkbox"/> その他（ ） | 【 <input type="checkbox"/> 常勤（ 名） | <input type="checkbox"/> 非常勤（ 名） | （週に____回）】 |

(4) 幼児の指導や教育相談をする場の名称を記入してください（例：○○小学校幼児部、△△町幼児ことばの教室）。

C-5 幼児の教室や小学校における中学生の指導について

(幼児の教室や小学校の学級・教室で中学生を指導している場合に回答してください)

- (1) 中学生をどのような手続きで受け入れているか記入してください。

- (2) 中学生に対して、どのような指導をどの程度の頻度で行っているか記入してください。

- (3) 中学生の指導内容や方法について課題があれば記入してください。

C-6 高校生の指導について

(幼児の教室や小・中学校の学級・教室で高校生を指導している場合に回答してください)

- (1) 高校生をどのような手続きで受け入れているか記入してください。

- (2) 高校生に対して、どのような指導をどの程度の頻度で行っているか記入してください。

- (3) 高校生の指導内容や方法について課題があれば記入してください。

C-7 保護者との連携について

- (1) 保護者とのかわりについて感じることがあれば記入してください。

- (2) 子どもの障害に対する保護者の理解に関して、課題や支援の具体例があれば記入してください。

- (3) 学級・教室で保護者と連携しながら実施している活動があれば記入してください。

- (4) 親の会活動について、該当する番号に○印をしてください。
 1. この学級・教室の対象児を中心とした親の会がある
 2. 他校の学級・教室と合同の親の会がある
 3. 上記の1, 2の両方にあてはまる
 4. 現在、学級・教室としては親の会活動には関与していない

調査項目 D 担当者の経験及び研修について

(1) 担当者全員について、教員経験や難言教育の経験年数を記入し、勤務形態、免許状の有無、難言教育の研修経験（教育センター・大学・研究組織等）について当てはまるものに○印を記入してください。

担当者	教員経験 の通算	難言教育 の経験	勤務形態	特別支援学校 教員免許状	難言教育を初めて 担当する際の研修	難言教育を担当 する中での研修
A先生	年目	年目	【常勤・非常勤】	【有・無】	【有・無】	【有・無】
B先生	年目	年目	【常勤・非常勤】	【有・無】	【有・無】	【有・無】
C先生	年目	年目	【常勤・非常勤】	【有・無】	【有・無】	【有・無】
D先生	年目	年目	【常勤・非常勤】	【有・無】	【有・無】	【有・無】
E先生	年目	年目	【常勤・非常勤】	【有・無】	【有・無】	【有・無】
F先生	年目	年目	【常勤・非常勤】	【有・無】	【有・無】	【有・無】
G先生	年目	年目	【常勤・非常勤】	【有・無】	【有・無】	【有・無】
H先生	年目	年目	【常勤・非常勤】	【有・無】	【有・無】	【有・無】

(2) 難言教育の専門性の維持・向上について考えていることがあれば記入してください。

調査項目 E 自由記述

難聴・言語障害教育の現在・将来などについて考えていることをお書きください。

また、その他にご意見がありましたらお書きください。

(下欄の_____に、見出し語を記入し、その内容について箇条書きで記入してください)

○ _____ について

・

○ _____ について

・

○ _____ について

・

ご協力ありがとうございました。

以下に、学校名や記入された先生のお名前を記入いただければ幸いです。差しつかえない範囲でご協力お願い申し上げます。

学校名 _____ 記入者 _____